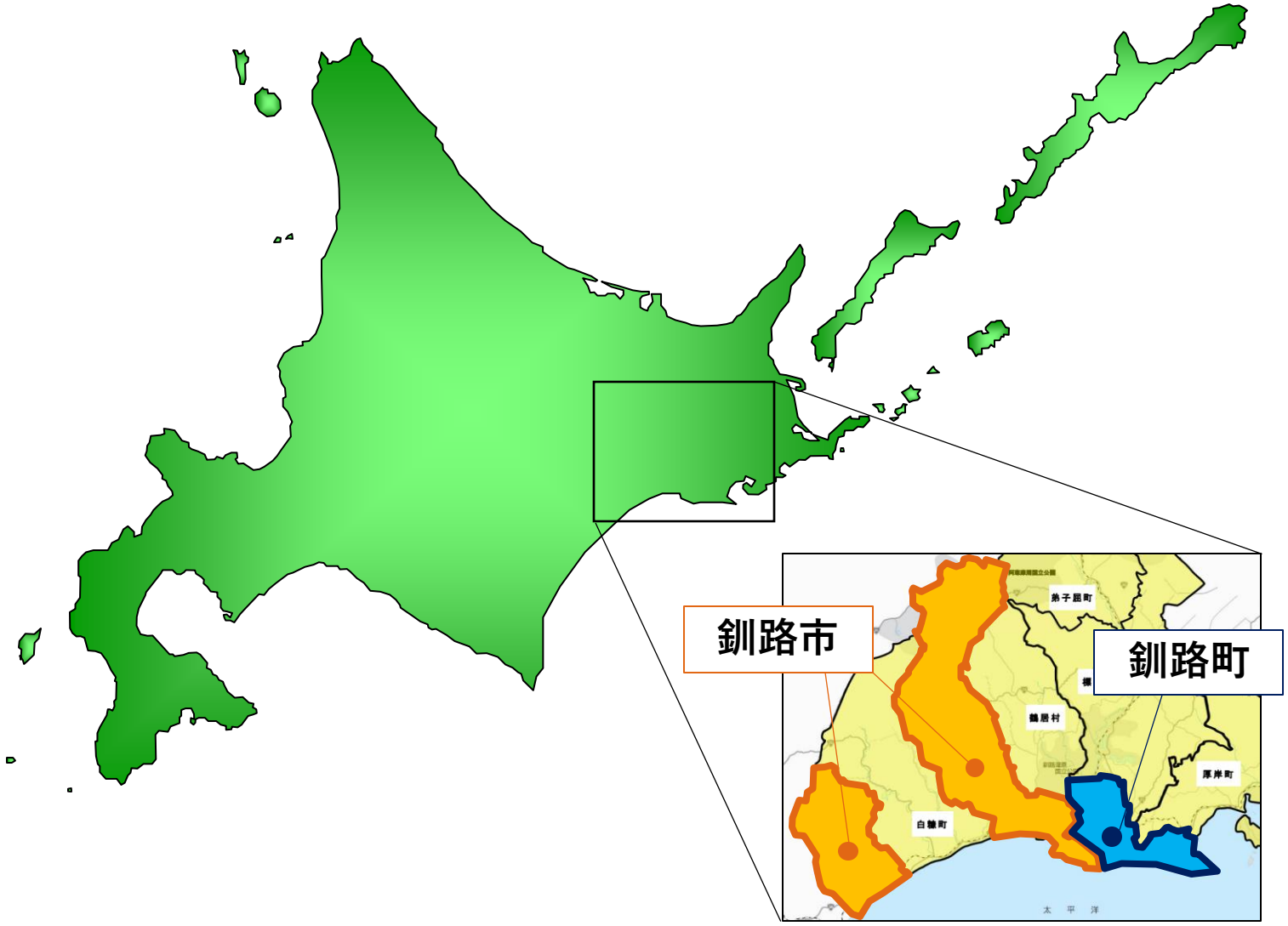
エネルギー貧困解決のための未来フォーラム
～気候変動対策と福祉の連携を目指して～

釧路町ゼロカーボンシティ
未来デザイン会議による住民対話の実践

2026.11.9（月）

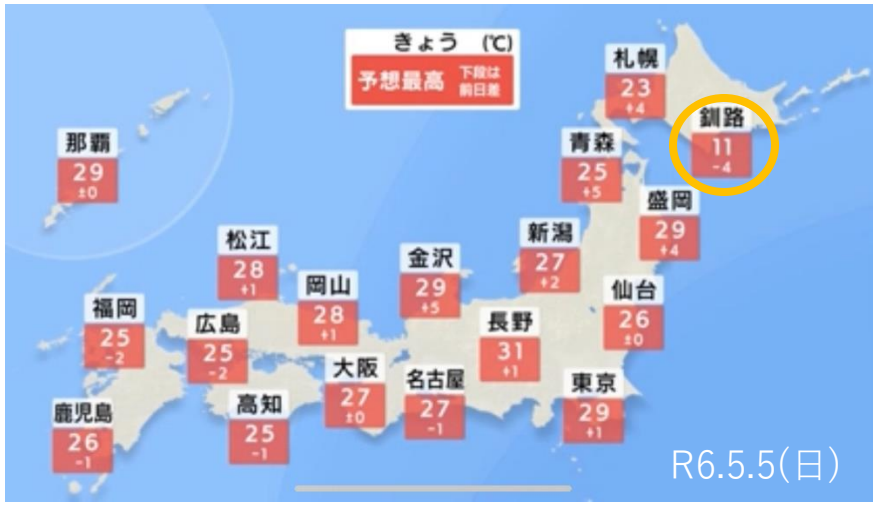
釧路町環境生活課環境政策係　係長　伊 東 佳 基

釧路町の概要



人　　口	17,802人　（R8.7.31）
世 帯 数	9,550 世帯　（R8.7.31）
面　　積	254.15平方キロメートル
最高気温	31.5℃　（H 22.6.26）
最低気温	-17.8℃　（H 10.1.8）

※釧路地方気象台データ





釧路湿原国立公園（細岡展望台）

釧路湿原国立公園は、釧路川とその支流を抱く日本最大の釧路湿原及び湿原を取り囲む丘陵地からなり、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ多くの動植物の貴重な生息地となっています。

特に細岡展望台は、湿原ビューポイントとしてNO.1の人気を誇ります。どこまでも広がる釧路湿原の中を大きく蛇行する釧路川が特徴です。

tripadvisor「旅好きが選ぶ！日本人に人気の展望台＆公園ランキング2020」第１位

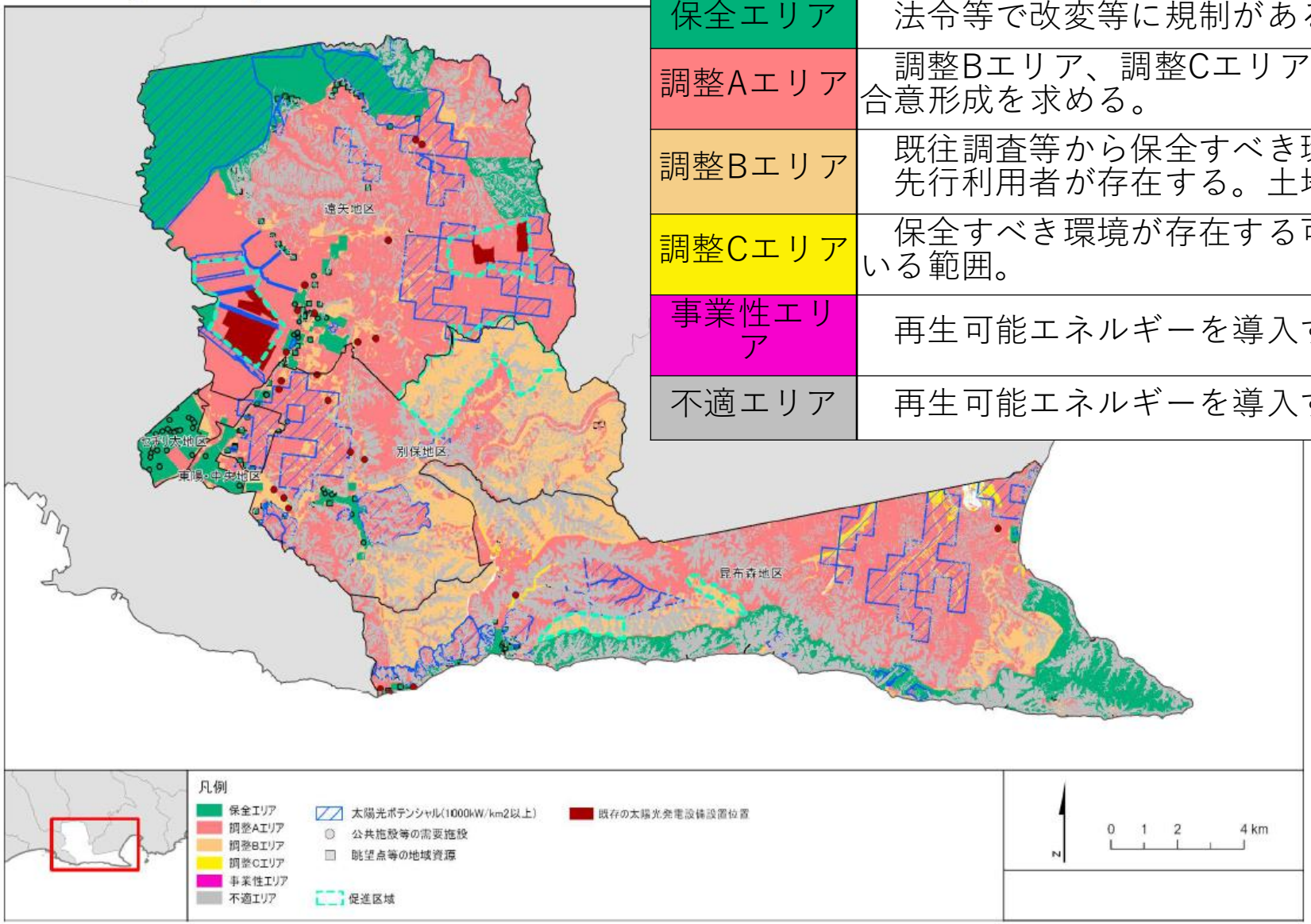


点在する太陽光発電所

　釧路湿原国立公園やその周辺には、太陽光発電所が点在しており、景観の悪化や生態系への影響などが危惧されている。

【町の対応】　ゾーニングマップの公表（令和６年４月～）

太陽光発電(売電型)



エリア区分	定義
保全エリア	法令等で改変等に規制がある範囲に指定されている。
調整Aエリア	調整Bエリア、調整Cエリアの調整・留意事項に加え、地域との合意形成を求める。
調整Bエリア	既往調査等から保全すべき環境の存在が確認されている。 先行利用者が存在する。土地の利用や改変等に手続きがある。
調整Cエリア	保全すべき環境が存在する可能性がある。法令等で指定されている範囲。
事業性エリア	再生可能エネルギーを導入する条件が良い。
不適エリア	再生可能エネルギーを導入する条件が悪い。

- 令和６年４月から公表
- これまでの問い合わせ件数
  →35社48件
- 配慮事項を伝え、専門家等に相談するよう依頼

釧路町ゼロカーボンシティ未来デザイン会議を発足！

未来デザイン会議のテーマ

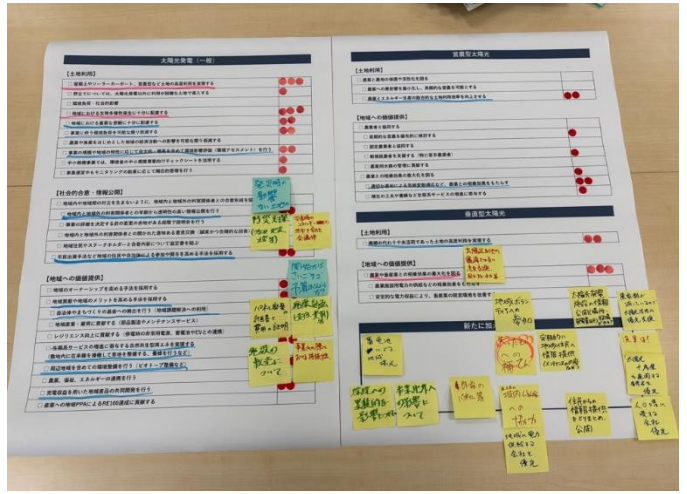
釧路湿原などの「自然環境」を守りながら「エネルギーの地産地消」を進め、私たちの暮らしを豊かにするためには？

参加者　地域住民、大学教授、金融機関、エネルギー事業者、地域NPO、希少生物専門家など、多様な主体が参加（約20名）

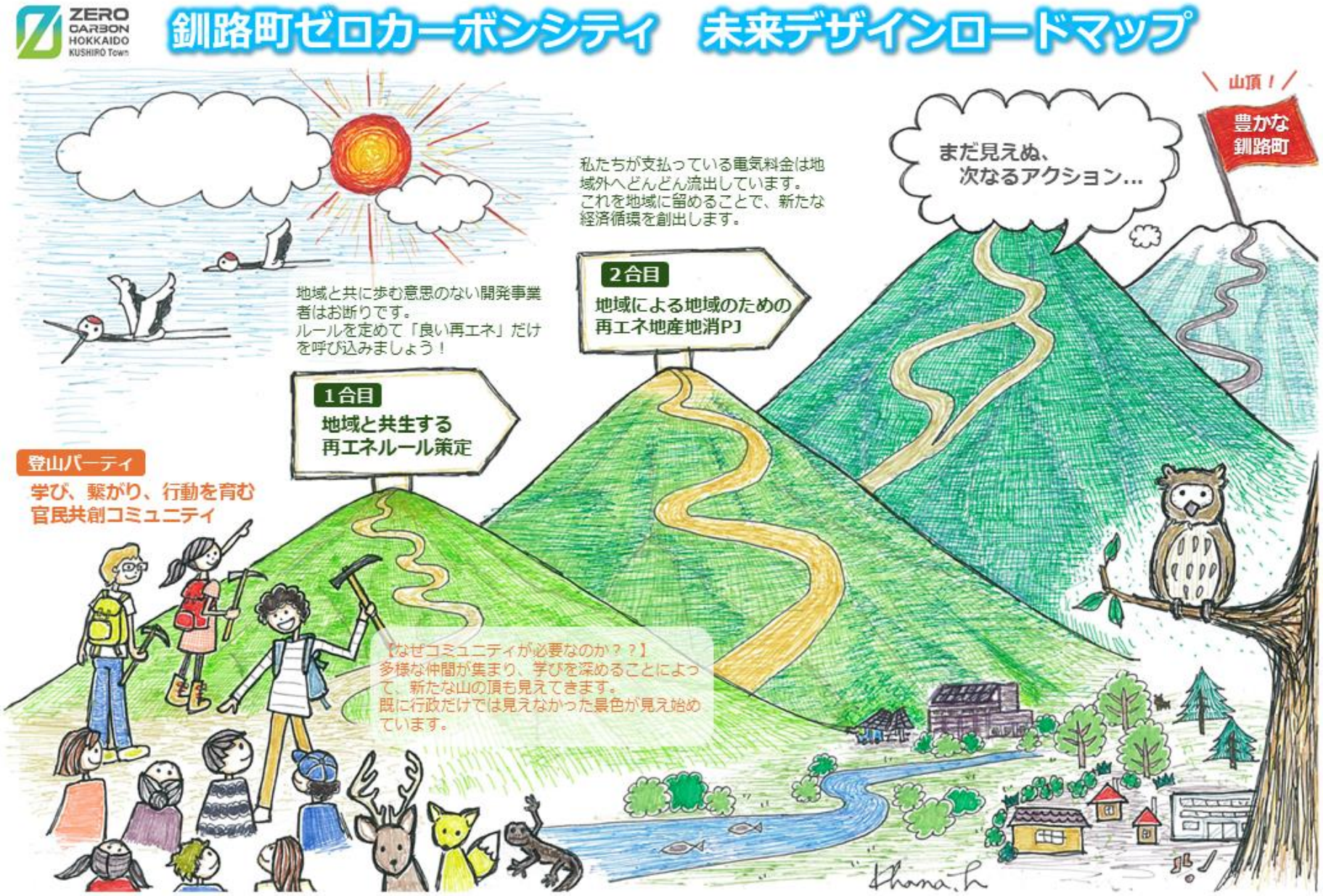
経　過　令和７年３月に第１回を開催し、これまで10回開催。
本年１月には未来デザインシンポジウムも開催し、これまでの取組を広く住民に共有。（約100名参加）







釧路町未来デザイン会議で示された方向性



基本理念（キーワード）

再エネを地域の豊かさに変換する

1 地域内でエネルギーと経済が循環するまち



再生可能エネルギーによる収益や経済効果が地域内に還元され、地域課題解決や住民サービス向上につながっている状態

2 自然や暮らしと共生しながら成長するまち



豊かな自然環境を守りながら、私たちの暮らしと調和した再生可能エネルギー導入が進み、地域との共生が実現している状態

3 新たな産業と雇用が生まれるまち



再生可能エネルギー関連産業やＧＸ産業の集積により、新たな雇用や投資が生まれ、若い世代に希望を持てる状態